

副詞使用の誤用と その原因について

—韓国語を母語とする日本語学習者の
副詞の誤用例を参考に

尹惠珍

◆要旨

日本語の副詞は類義語との使い分けが困難で、意味・用法が抽象的であるという特徴から日本語学習者にとってかなり難しい学習項目であり、これが原因で誤用を産出すると言われている。本稿では副詞の誤用の原因を明らかにするため、国立国語研究所が公開している『外国人学習者の日本語誤用例集』を用い、韓国語を母語とする学習者がどのような副詞の誤用を多く産出するか、また、その原因と思われる背景について考察を行った。その結果、誤用の多い「たくさん」の場合は「類義語との使い方の混同」が誤用の原因とは言いにくく、「日本語テキスト、日韓・韓日辞典の意味・用法に関する説明不足」、また「両言語の副詞の使用範囲の違い」が誤用に大きく影響していることが分かった。

◆キーワード

副詞の誤用、韓国語母語話者、
類義語との関係、副詞の示し方、母語の影響

◆ABSTRACT

The Japanese adverb is considered to be one of the most difficult learning items for Japanese-language learners, as how to use synonyms of adverbs differently is difficult, and the meanings and usage of adverbs are abstract—which may cause errors in adverb usage. In order to address adverb misuse, this paper examines what errors are frequently made by native Korean speakers learning the Japanese language and possible factors for these errors, by using data from Gaikokujin gakushuusha no nihongo-goyooreishuu (List of Errors by Learners of Japanese) published by the National Institute for Japanese Language and Linguistics. In the case of the adverb “takusan”, frequently misused by Korean learners of Japanese, the results of an analysis indicate that adverb errors are not caused by a confusion of adverb synonyms but by insufficient explanation about their meanings and adverb usage in Japanese textbooks and Japanese-Korean/Korean-Japanese dictionaries. Furthermore, the errors are also due to the difference of meanings and usage between Japanese and Korean adverbs.

◆KEY WORDS

adverb errors, native Korean speakers,
relation in synonyms, how to present adverbs,
influence of a mother tongue

Errors in Adverb Usage and
Factors of Misuse
Adverb errors by native Korean speakers
learning the Japanese Language
HYEJIN YUN

1 はじめに

従来、日本語教育における副詞の研究は類義語との比較・対照による使い分けの提示や意味・用法に関するものであった。それは、日本語の副詞が類義語との使い分けが困難で、さらに、意味・用法が抽象的であるという特徴から多くの誤用を産出するとされてきたためである(連沼1987,森田1989)。

また、韓国語を母語とする日本語学習者を対象とした考察では、母語と重ならない微妙なズレを持つ日本語表現を考慮しないで「日本語に置き換える作業一直訳」を行うことが副詞の誤用につながると指摘されている(李1990)。

その他、副詞の学習には母語で訳された辞書や日本語テキストなどが用いられているが、辞書やテキストでの意味・用法の説明不足は副詞に限らず日本語語彙全体の問題点として言及されている。

以上により副詞の誤用原因とされるものは次のようにまとめることができる。

- ①類義語との使い分けの困難
- ②母語で訳された辞書と日本語テキストでの意味・用法の説明不足
- ③「日本語に置き換える作業一直訳」による両言語の表現のズレ

本研究では、上記の3つの原因が本当に副詞の誤用の原因であるのかを考察し、誤用を防ぐために注意すべき点の提案を試みる。

2 副詞の誤用例と考察対象について

2.1 韓国語を母語とする日本語学習者に見られる副詞の誤用例について

『外国人学習者の日本語誤用例集』で示されている誤用は(表記、発音、活用、格助詞、連体修飾など)62項目に分類されており、さらに、学習者の国籍別、作文形式により細分類されている。その中で、韓国語を母語とする学習者に見られる副詞の誤用例数は次に示す通りである。

※副詞の誤用例数：383例

「3.8.副詞【Ad】→247例」「5.6.6.副詞的連用修飾【副用】→136例」

※韓国語を母語とする学習者の副詞の誤用例数：54例

「副詞【Ad】：44例」「副詞的連用修飾【副用】：10例」

表1 韓国語を母語とする日本語学習者に誤用が見られた副詞と副用54語

まだ・このごろ・たいへん (2)・たくさん (4)・第一 (2)・すこし (2)・もう・もっと (2)・全部・みんな (2)・かねて (かねに)・だんだん・本当に (ほんとう、ほんと (2))・どのくらい・もっとも (2)・早速・この間・なかなか (2)・また・ちょうど・はじめに・とても・すなわち・ほかに (2)・不幸に (2)・まず・ほとんど・十分に・十分な・いっそ・だいぶ・一番 (2)・なにもまして・いくら・ちょっと・たいてい・平均的で・べつべつの・その間・ほかに	[*誤用の出現順で並べたもの、()は出現数]
--	-------------------------

2.2 考察対象について——程度を表す副詞「たくさん」

上記の表1で示すように副詞の誤用は「大変」「たくさん」「少し」「もっと」など「程度を表す副詞」に多く見られる。程度を表す副詞の誤用は他言語を母語とする日本語学習者にも見られ、韓国語を母語とする学習者に限った特徴とは言いがたいが、ここで着目すべき点は誤用が最も多く見られた「たくさん」(4回)である。「たくさん」を用いた誤用は中国語を母語とする学習者に2例見られただけで他言語を母語とする学習者にはほとんど見られなかった。以上のことから「たくさん」を用いた誤用は韓国語を母語とする学習者の言語知識や母語など他言語にない何か背景となって生じた誤用であると推測できる。

朴(2011)は、韓国の高等学校で使用する10種の日本語教科書を分析し、韓国語を母語とする日本語学習者において誤用の可能性が高いものについて考察している。副詞に関しては「もっと(1種)」「はじめ(て)(5種)」「かならず(5種)」「たくさん(10種)」「ぜひ(4種)」「きっと(1種)」が誤用の可能性のあるものとしているが、「たくさん」は10種すべての教科書で誤用の可能性が見られ、最も誤用が生じやすい副詞であることを示唆している。

3 「たくさん」を用いた誤用の原因

3.1 「たくさん」を用いた誤用例と「たくさん」の類義語について

『外国人学習者の日本語誤用例集』に見られる「たくさん」の誤用例は表2に示す通りである。これらの誤用例から見ると「たくさん」を用いた誤用は「とても」や「もっと」との使い分けの混同によるものと考えられる。

表2 「たくさん」を用いた誤用例（*修正文：筆者）

例 (1) しかし韓国は開発途上国ですから人達 (1) がたくさん (2) 忙しいです。 →しかし、韓国は開発途上国ですから人々は とても 忙しいです。
例 (2) 夏には (1) たくさん (2) 暑 (3) です。 →夏は とても 暑いです。
例 (3) 日本の物価と韓国 (1) 物価とを比べると日本の物価 (2) がたくさん (3) たかい (4) である (5)。 →日本の物価と韓国の物価をくらべると日本の物価の方が もっと （ずっと等）高いのである。
例 (4) 今の学校教育は (1) 社会生活と合わないことが とても たくさん (2) あります。 →今の学校教育には 社会生活と合わないことがたくさん あります。

3.2 類義語との使い方の混同——「たくさん」「とても」「もっと」は類義語？

類義語辞典『使い方の分かる類語例解辞典 新装版』(2008) では、「たくさん」「とても」「もっと」が共に程度を表す副詞であると示しているものの、これらが類義語・関連語であるという記述はされていない。

では、なぜこれらの使い方に混同が見られたのか。「たくさん」「もっと」「とても」は下記の表3で示すように置き換えることのできない単独の用法をも持つ一方、全く異なる意味を表すものの同じ文で用いることも可能である。「同じ文で用いることが可能だから同じ意味」という学習者の思い違いが原因で誤用が生じたとも考えられるが、少なくともこれらの意味・用法に共通点が見られなかったことから類義語としての使い方の混同が副詞の誤用の原因であるとは言い難い。

表3 「たくさん」「もっと」「とても」の意味・用法（『現代副詞用法辞典』2004）

副詞	意味・用法	意味・用法の相違点
たくさん	①数量が多い様子を表す	a 「たくさん」 食べてください。 b 「もっと／*とても」 食べてください。
	②不必要である様子を表す	a パパのくだらないお説教なんてたくさんだ。 b パパのくだらないお説教なんて「*とてもだ。／*もっとだ。」
もっと	現状の程度や数量を高める様子を表す	a どうしてもっと早く言わないだ。 b どうして「*たくさん／*とても」早く言わないだ。
とても	①後ろに打消しや否定表現を伴い可能性が全くない様子を表す	a 私には捨て犬などとてもできそうもない。 b 私に捨て犬など「△もっと／*たくさん」出来そうもない。
	②程度が甚だしい様子を表す	a 彼はパーティにとっても素敵な女性を連れてきた。 b 彼はパーティに「もっと／たくさん」素敵な女性を連れてきた。

3.3 日本語テキスト、日韓・韓日辞典における副詞の意味・用法の示し方

表4 『民衆日韓・韓日辞典』(1995)（*□は韓国語に対応する語）

「たくさん」	副 ①(수나 분량이 많은 (数や分量が多い様)) 많음 「(例) ~의 사람 / ~食べる 많이 먹다」 ② 충분함 , 더 필요없음 「(例) もう~だ 이것으로 충분하다, 이제 됐다」
「とても」	副 ① 아무리해도 , 도저히 「(例) ~出来ない」 ② 대단히 , 매우 , 몹시 「(例) ~きれいだ」
「もっと」	副 더 , 더욱 , 좀더 , 한층 「(例) ~右のほうへ 좀더우측으로 / ~ください 좀더주시요」

副詞学習に多く用いる母語で訳された辞書のほとんどは表4で表すように韓国語に対応する語と基本的な使い方を示した例文だけを載せている。しかし、これだけで副詞の意味・用法を理解することは難しく、直訳を通しての理解を求めるものにほかならない。

一方、日本語テキストにおける副詞の意味・用法の示し方の問題点を明らかにするために、レベルに焦点を当て選定した15冊のテキストを中心に分析を

行った(『みんなの日本語 初級 I・II』、『初級 できる日本語』、『おもしろい新標準日本語 初級』、『くらべておぼえる副詞 (初・中級)』、『広がる深まる副詞 (上級)』など)。

その結果、意味・用法の説明がかなり不足していること、また、「形(文法)」を重視した副詞の提示法が誤用を招く原因であることが分かった。意味・用法の説明がきちんと行われず、「形(文法)」を重視した学習法で副詞を覚えてしまうと「何かが多い」意味のことばが必要な場面で「たくさん」を乱用し、誤用を犯す結果につながる事が考えられる。

3.4 母語「韓国語」の影響

上記で述べたように、「たくさん」を用いた誤用は「とても」「もっと」との使い方の混同が原因であるとは言い難いが、これらが何らかの形で誤用に関係していることは間違いない。

ここでは韓国の映画シナリオを日本語に訳した『韓国語完全対訳シナリオ 四月の雪』とネット辞典(NAVER日本語辞典)で示す例文をいくつか挙げ、「たくさん」を用いた誤用の原因を探る。

- (6) a 궁금한게 너무 많았는데. (映画シナリオ)
b 聞きたいことはたくさんあったけど…。
c 気になることはとても多かったのだが…。
- (7) a 아직 의식을 회복하진 못했지만 상황은 많이 안정적이니까. (シナリオ)
b まだ意識は戻っていませんが、とても安定している状態です。
- (8) a 갓난아기는 손이 많이 간다.
b 赤ん坊はとても手がかかる。 (ネット辞典)
- (* 「많다[ma:ntha]」: 基本形、形容詞、「많음[ma:num]」(많이[ma:ni]): 活用形、副詞)

まず、例文(6)では「たくさん」を「多い」に置き換えられることが分かる。これは「たくさん」に対応する語「많다」が「多い」の対応する語でもあることと、「たくさん」と「多い」両語の使い方が類似しているためであろう。しかし、本稿で挙げた「たくさん」を用いた誤用例に「多い」との使い方の混同が見られなかったため、「多い」との関連性が誤用に影響を与えているとは言

い難い。それより、日本語で程度を示す対象が具体的なものか抽象的なものかによって「たくさん」と「多い」を区別しているのに対し、韓国語の「많다」はそのような区別がなく、どちらにも対応できる点に注目すべきである。

「많다(많이)」を辞書で引いてみると「たくさん」「多い」「うんと」「よく」「激しい」「深い」「たんまり」など、程度を表す副詞のほか形容詞にも対応していることが分かる。また、ネット辞典で「많이」に関する例文を調べてみた結果、「もっと」の対応ことば「더[do]」が「많이」の関連語として扱われており、程度性が強い(高い、多い、大きい等)ことを表す日本語のほとんどが「많이」に対応されているなど、辞書が示す意味・用法よりもはるかに幅広い意味として用いられていることが分かった。さらに、例文(7)、(8)では「とても」が「많이」に対応しており、このような「많다(많이)」の使用範囲の広さが「たくさん」を用いた誤用に深く関係していると考えられる。

様々な場面で使える「많다」は便利なことばではあるが、使用範囲の広さは韓国語を母語とする学習者にとって厄介なことである。その理由としては、「日本語に置き換える作業—直訳」で日本語の学習が行われる場合、「많이」に対応できるから同じ意味であると勘違いしてしまう、または「많이」に対応できない程度を表す副詞まで「많이」に直訳してしまう、さらには副詞が持つ様々な意味・用法を無視しすべてを「많이」に対応させるなど、使い方の誤解や誤用を招く原因になるからである。

両言語の副詞の使用範囲の違いに関する問題は「たくさん」だけに見られるものではない。その例として陳述副詞に属する推量副詞が挙げられる。推量副詞は話し手の主観的判断や気持ちなどが含まれるため、話し手の主観的判断の確信の度合いの差から様々な対応関係が成り立つ。例えば、「たぶん」に対応する語「아마[ama]」は「많다」と同様幅広い使い方を持っており、「必ず」「きっと」「おそらく」「どうやら」「たいてい」など様々な推量副詞に対応できる。しかし、「아마」は話し手の確信の度合いが低い場合に用いることばであるため、使い方が十分理解できていないと誤用を招いてしまう恐れがある。

4 終わりに——まとめと今後の課題

副詞の誤用を防ぐためには、日韓両言語の副詞が持つ意味・用法を十分に理解すること、また、両言語の副詞の使用範囲や表現のズレを考慮した学習が最も重要である。

今後は、本稿で示した副詞の誤用を防ぐための提案の妥当性について検討していき、副詞学習に最も役立つ意味・用法の示し方について考察する。

〈名古屋市立大学大学院生〉

参考文献

- 李鳳姫 (1990) 「上級の日本語教育—韓国人学習者の場合 (上級の日本語教育〈特集〉)」 『日本語教育』 71, pp.33-43.
- 朴銀南 (2011) 「日本語教育에 있어서의 誤用可能性에 관한 一考察: 고등학교에서의 일본어 교육을 중심으로 (日本語教育の誤用可能性に関する一考察—高等学校での日本語教育を中心に)」 蔚山大学教育大学院修士論文
- 蓮沼昭子 (1987) 「副詞の語法と社会通念—「せっかく」と「さすがに」を例として」 小泉保教授還暦記念論文集編集委員会 (編) 『言語学の視界』 pp.203-222. 大学書林
- 森田良行 (1989) 『日本語をみがく小辞典 形容詞・副詞編』 講談社
- 飛田良文・浅田秀子 (2004) 『現代副詞用法辞典』 スリーエーネットワーク
- 小学館辞典編集部 (編) (2008) 『使い方の分かる類語例解辞典 新装版』 小学館
- 民衆書林編集部 (編) (1995) 『民衆日韓・韓日辞典』 辞書専門民衆書林

参考資料

- ホ・ジノ (2005) 『韓国語完全対訳シナリオ 四月の雪』 ワニブックス
- 寺村秀夫 (1990) 『外国人学習者の日本語誤用例集』 (大阪大学; PDF版 国立国語研究所 2011年) (2014年11月21日参照)
- NAVER 辞典 (民衆書林) <http://dic.naver.com> (2014年11月21日参照)